

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	建築における未来の水環境検討小委員会		主 査 名：小瀬 博之 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：大塚 雅之
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2016 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水環境の未来のあり方を総合的な枠組みで検討し広く世間に伝えること ・ 建築における水環境の環境側面と環境影響に関する項目の抽出 ・ 建築における水環境のライフサイクルに関する課題の抽出 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：小瀬博之 (東洋大学)、幹事：中野民雄 (静岡文化芸術大学)、小澤愉 (日建設計)、高橋達 (東海大学)、西川豊宏 (工学院大学)、藤田哲典 (都市再生機構)、結城晶博 (TOTO)、樋口佳樹 (日本工業大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2013 年度予算	56,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s21/water	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 建築における水環境の環境側面と環境影響に関する項目の抽出は、図化して諸問題を一覧できるようにした。 2. 建築における水環境のライフサイクルに関する課題の抽出は、参考文献を収集して、表現方法も含めて内容を確認した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. 成果物の対象者の明確化 2. 建築の立場から考慮すべき水環境の課題についての範囲の明確化 3. 望まれる公表形態、表現方法の検討

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>小委員会の活動目標を定め、今後の建築分野における水環境への配慮を広く世間に伝える目標を、建築の初学者あたりに定めて活動を開始した。</p> <p>水環境をはじめとする建築に関わる分野において公表されている文献を収集し、建築における水環境の全体像を図化する作業に取り掛かるための基礎的な資料を得た。</p> <p>建物内における水循環系、建物周辺における水循環系、地区・地域・都市における水循環系など、水環境全体を示す図や、機器の省エネルギー・生態系・温暖化・ヒートアイランド・水質汚濁などの各部における絵図を、さまざまところで公表されているものを収集して、建築における水環境の全体像を図化する作業に取り組んだ。</p> <p>2008 年 12 月に表明した「建物とその周辺における健全な水環境の形成に関する考え方」を継承して、健全な水環境の形成に向けて、総合的かつ具体的な活動に向けての準備を行うことができた。</p> <p>初年度の活動における「建築における水環境の環境側面と環境影響に関する項目の抽出。建築における水環境のライフサイクルに関する課題の抽出。」については、先に 2 年度の活動予定であった「事例・研究成果の収集。絵図としての表現方法の検討。公表方法の検討。」を先行して検討しているために、必ずしも十分な成果が得られなかった。</p> <p>今後は、引き続き資料収集を行うとともに、大学生初学者をターゲットとして、水環境に興味を抱くコンテンツの検討を行うとともに、コンテンツの提供形態について検討した上で、コンテンツの試作を行う。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。